

広報

No. 149

くま

昭和60年11月15日

発行・編集 国見町企画課

町政功労者を表彰……………	2
昭和61年成人者……………	3
ふるさとを偲んで（貝田宿）……………	4～6
ふるさとの文化財……………	7
おしらせ……………	8～9
公民館だより……………	10～11
わだい……………	12

'85

11月

“ヨメナ”

通称ノギクと呼ばれるキク科の多年草。道端などでよく見かけ、秋に淡紫色の花を咲かせます。似たものにノコンギクがあります。(石母田で)



# 町政功労者を表彰



昭和六十年度の町表彰式が、十一月一日、町公民館で行われました。これは、町表彰規程により、政治、経済、産業、文化、社会など町政各般にわたって、町の発展に尽くされた方々を顕彰するもので、今年で十九回を迎えました。

今年も、功労表彰として、前

町長の佐藤善右工門さん、町職員の佐藤則雄さんら十名が受賞。善行表彰は、部落会長、納税貯蓄組合長の遊佐保平さん、人命救助の安彦孝太郎さん、大内善次郎さんら七名が受賞しました。安彦さん、大内さんは、六月二十九日、泉田の雨沼で溺れた児童を助けたものです。

野で尽力されてきた受賞者一人一人に菊地町長から表彰状と記念品が贈られました。受表彰者の皆さんの功績を称えるときともに、今後も引き続き国見町発展のためご尽力くださるようお願いいたします。

受賞された方々は次のとおりです。(敬称略)

## 功労表彰

- ▽佐藤善右工門 (前町長)
- ▽佐藤 則雄 (町職員)
- ▽古川 比司 (町職員)
- ▽吉田 貞男 (町職員)
- ▽高橋 正夫 (町職員)
- ▽中野 成子 (町職員)
- ▽小野 智義 (町職員)
- ▽春日 一憲 (町職員)
- ▽穴戸 ヤイ (町職員)
- ▽大沼 イト (町職員)

## 善行表彰

- ▽遊佐 保平 (部落会長、納税組合長)
- ▽神林 隆夫 (部落会長)
- ▽斎藤 正美 (部落会長)
- ▽仲野 周一 (部落会長)
- ▽井砂 由三 (部落会長)
- ▽安彦孝太郎 (人命救助)
- ▽大内善次郎 (人命救助)

## 高橋勇記さんに 勲七等青色桐葉章



菊薫る十一月三日、秋の叙勲に高橋勇記さん(塚野目字小原二〇八十歳)が勲七等青色桐葉章を受章しました。

高橋さんは、昭和八年から勇退した四十二年まで、三十四年間の長きにわたり地域消防に力を注いでこられました。この間、終戦直後から勇退するまで副分団長として活躍されました。

叙勲の伝達式は、十一月八日午前十時から町長室で行われ、菊地町長立ち合いのもと、高橋益果生活福祉部次長から高橋勇記さんへ勲章が手渡されました。高橋さんは「感激にたえませぬ。今後とも叙勲の名に恥じないよう生きていきたい」と喜びを話してくれました。

# 昭和六十一年成人者

## 来年一月十五日に成人式



来年一月十五日の「成人の日」には町の成人式が行われます。

対象者は、昭和四十年四月二日から四十一年四月一日までに生まれた方で、町内に住者です。ただし、希望すれば当町出身の町外在住者でも参加できます。

早めに教育委員会に申し込みください。☎八五二二一一

十一月一日現在の予定者は次のとおりです。氏名に誤りや記載もれがあればお知らせください。

### ◆藤田地区 73名

高橋美喜子	富樫幸子	紺野伸也	佐藤隆吉	村山典隆	舟木晃徳	石川紀子	佐藤正明	山崎みき子	秦誠
羽賀達也	佐藤真由美	吉田三千代	山田長徳	鈴木和幸	佐藤直美	近藤かおり	富永いせ	鈴木ゆかり	赤井畑直明

大波恵美	西宮昇	佐藤聖之	佐久間浩之	松野淳	小原早苗	佐藤武	菊池喜伸	菊池克哉	菊池久美子										
浦綾子	内清史	菊池淳則	吾妻淳	菊池久美子															

### ◆小坂地区 13名

高橋加代子	瀬戸美和子	安藤義則	渡辺美佐子	阿部昭子	菅野照美子	菅野和子													
菅野和子	菅野和子	菅野和子	菅野和子	菅野和子	菅野和子	菅野和子	菅野和子	菅野和子	菅野和子	菅野和子	菅野和子	菅野和子	菅野和子	菅野和子	菅野和子	菅野和子	菅野和子	菅野和子	菅野和子

### ◆森江野地区 32名

寺島寛隆	吉田明美	吉田幹男	廣居美恵子	角田晴美	佐久間美咲	小幡美和子	大津修子	佐久間恵子											
佐藤新	藤美由紀	田久美子	池芳典	藤美千子	藤幸弘	藤敏男	村佳子	野栄治											

### ◆大木戸地区 17名

大沼広人	松田幸子	星野勝幸	星野和子																
星野和子																			

### ◆大枝地区 11名

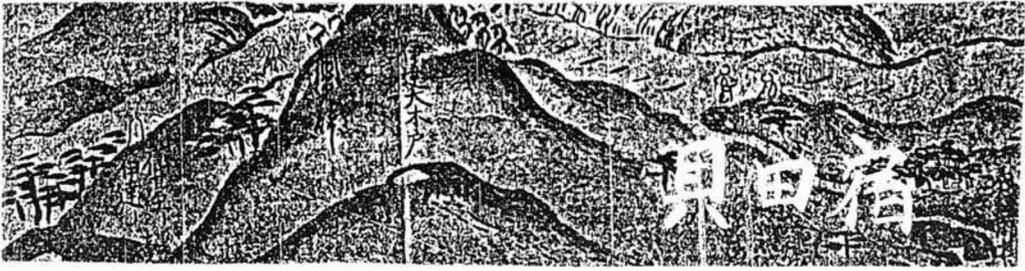
瀬戸緑	松浦淳	玉手利美	井砂紀子	鈴木理香子	木村智恵子														
木村智恵子																			

合計146名 (男55名 女91名)

## 工業統計調査 石油等消費構造統計調査にご協力を

通商産業省では、工業統計調査および石油等消費構造統計調査を毎年12月31日現在で実施しています。調査の対象となる製造業を営む事業所には、年末年始にかけて調査員が伺います。調査の内容は、統計以外の目的に使われることは決してありませんので、安心してご協力くださるよう、よろしくお願い致します。





▲昔の面影を今なお残す石垣

小雨が降り、吹く風が肌をさす秋深まった一日、福島県の最北端に位置し、宿場町として栄えた旧奥州道中貝田宿を、郷土史研究家の菊池利雄さんの案内で歩いてみた。

旧奥州道中の宿駅である貝田宿は、今から四百年以上も前、「独眼竜政宗」として東北に君臨した名将伊達政宗のころ、藤田宿と越河宿との間の合宿として貝田宿が置かれたとの伝えがある。寺屋敷、石原在家など村内に散在していた集落を道中沿いに引移して宿町とした)

いまなお静かにたたずむ最禰寺は、天正十六年に創建され、四百年にわたる長い間、この貝田宿を見守ってきた。

近世においては、東大枝、梁川宿を経て丸森、相馬に通じる重要な脇街道梁川道との分岐点として、交通上の要衝に位置していた。宿の入口にある三ツ石は、この村より遠くに旅立つ者人々と別れを惜しんだという。

元禄時代の村絵図には、梁川

貝田宿略年表

- 天文七年 (一五三八) 天文文七 [伊達氏段銭帳]に貝田郷(二ノ七百三十三文)がみられる。
- 天文二十二年 (一五五三) 天文二二 [伊達晴宗采地下隠録]貝田郷に孫左衛門屋敷、寺屋敷、しつづの在家、石原在家がみられる。
- 天正年間 (一五七〇-一五九二) 天正年間 [伊達政宗のころ、藤田宿と蒔田郡越河宿との間に合宿として、貝田宿が置かれたとの伝えがある。]
- 天正十六年 (一五八八) 天正一六 [長慶和尚、楡葉郡富岡村曹洞宗電堂寺の末寺として、貝田宿に最禰寺を創建す。]
- 文禄三年 (一五九四) 文禄三 [蒲生頼高目録]が作成され、貝田村は、光明寺村に吸収される。村高千二百二十石三斗九升、給人名として内記がみられる。
- 慶長十年頃 (一六〇五頃) 慶長一〇 [上杉領「邑鑑」]に光明寺村(貝田を含む)の戸数七十三戸、人口二百四十七人(男百四十六人、女百一人)とあり、諸職人が含まれていることから、貝田宿の存在がうかがわれる。
- 寛永十五年 (一六三八) 寛永一五 [上杉藩、貝田宿に口留番所を設置。大内市右衛門を番所役となす。]
- 寛永十九年 (一六四二) 寛永一九 [四月、米沢藩「信夫海道通之立札家書、並びに駄賃定」]によれば、藤田宿より国見峠を越えて貝田宿まで一里七町三十間、駄賃三十文、貝田宿より小須郷まで十九町五十間、駄賃は十一文とする。
- 万治年間 (一六五八-一六六〇) 万治年間 [光明寺村より貝田村が分立する。貝田村、古高八百八十斗四升、新高五百八十九石六斗八升五合とある。]
- 元禄二年 (一六八八) 元禄二 [五月三日、松尾芭蕉「奥の細道」の跡に貝田宿より白石に向う。]
- 元禄十一年 (一六九八) 元禄一〇 [「伊達郡貝田村絵図」によれば、梁川道との分岐点に名主伊左衛門宅、村上川附近に檢断庄左衛門宅、最禰寺前に口留番所がみられる。]
- 元禄十三年 (一七〇〇) 元禄一三 [桑折藩の成立により、領内の桑折、藤田、貝田宿、領内助郷による入馬継立が行われる。貝田宿、伝馬役として人足十一人、馬十匹を常備す。]
- 宝暦十一年 (一七六一) 宝暦一〇 [「御遊見使案内控」によれば、貝田村の家数五十二軒、人口二百八十一人(男百七十一人、女百十人)馬十六匹とあり、名主大沼孫十郎、檢断兵左衛門の名がみられる。]
- 天明八年 (一七八八) 天明八 [六月、幕府御遊見使に随行した古川古松軒、梁川より貝



▲最 禅 寺

道との分岐点に名主「伊左衛門宅」(間屋を兼ねていた)、姥上川附近に検断所(庄左衛門宅)、最前寺前には口留番所がみられる。参勤交替に往復する諸大名の休息したといわれる本陣(佐野屋)、脇本陣(入屋)をはじめ、旅行者を相手とする稼業をした「角屋」「吉野屋」など旧屋号を今に伝える家も多い。

明治十九年に東北本線が開通し、貝田宿は衰微し、宿場町としての使命を終える。この後、

貝田は機関車からの飛火などによる幾度かの大火に見舞われ、火事があれば、貝田の空をみる、といわれるほど、貝田は火事が多かったという



▲梁川道との分岐点

田宿を通り桑折宿に向かう。「民家何れも米を引き、絹を織り出すゆえにや、家居もよく人物も殷しからず、婦人戸外に出ずること稀なるゆえ、色白く風儀宜し」と、その著「東遊雜記」に誌されている。(一八三三)

天保三年  
三月、貝田村宗門人別帳)によれば、戸数六十戸(内寺一、口留一)、人口二百八十八人(男百四十七人、女百三十三人)、馬二百四匹とある。名主孫四郎、検断所次郎、口留番所田庄兵衛がみられる。(一八七二)

明治五年  
貝田宿、佐馬所(間屋)、助郷が廃止される。

明治八年  
貝田村の戸数六十一戸、人口三百二十七人(男百七十一人、女百五十六人、馬匹十五匹とある。(水田二十八町、畑四十五町三分区三畝二十一步)木賃宿一戸。

明治九年  
陸前街道は、道敷四間、福三間、馬踏二間半、梁川街道は、幅八尺、馬踏一間とある。(一八七六)

明治十九年  
六月二十二日、明治天皇東北御巡幸、国見峠を越えられ、貝田宿を北に向かわさる。(一八八六)

明治二十二年  
十二月、東北鉄道が開通し、貝田宿旅客貨物の減少から衰微する。(一八八九)

明治三十一年  
二月、伊達警察署、大木戸駐在所貝田に設置さる。初代巡査川井久五郎。

明治四十一年  
四月一日、大木戸、高城、貝田、光明寺村合併、大木戸村となり、役場を貝田字山ノ神四四番地に置く。初代村長半沢与一郎、助役大沼孫十郎。

明治四十二年  
貝田の戸数六十九戸、人口四百九十二人。

明治四十九年  
四月、貝田、東北本線の機関車からの飛火で大火、全戸数五十四戸中の二十八戸が焼失する。

大正十五年  
※この火災の前後、数年おきに大火が発生する。(一九二六)

昭和二十七年  
貝田大火、十三戸焼失する。

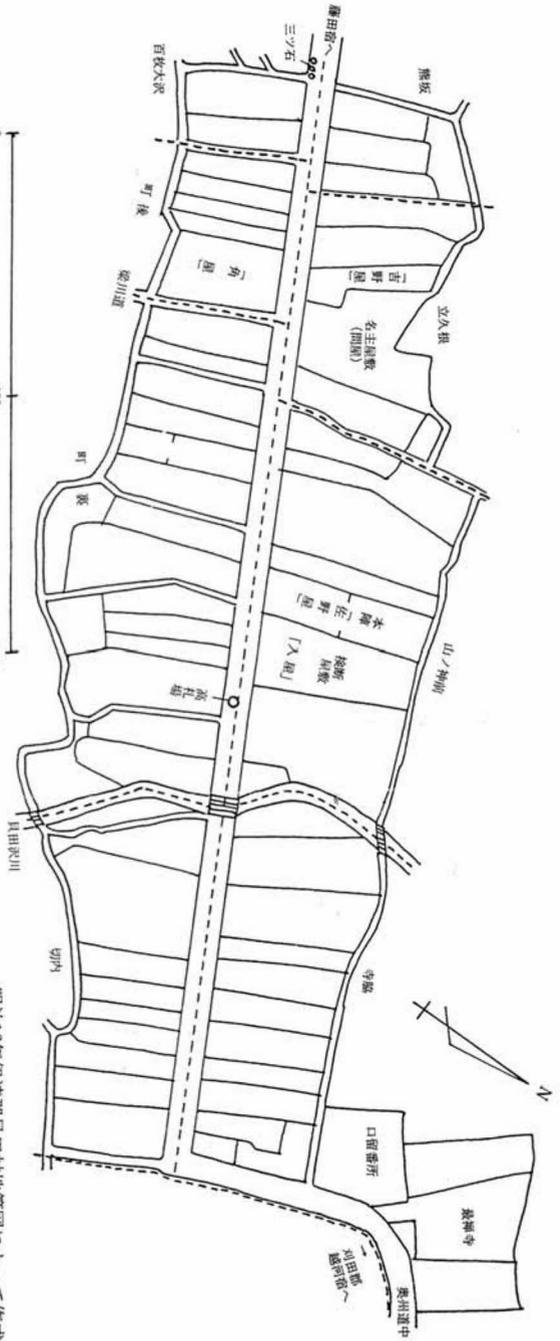
昭和三十九年  
東北本線の貝田信号所が昇格、貝田駅となる。

昭和五十年  
貝田集落の東側に建設中の新国道四号線が完工し、供用開始さる。(一九七五)

昭和六十年  
建設中の東北縦貫自動車道、貝田サービスエリア、供用開始さる。(一九八五)

昭和六十年  
十月一日、貝田の戸数百九十九戸、人口五百四十一人(男二百六十四人、女二百七十七人)。

作成資料  
国見町史、その他 菊池 利雄



奥州道中貝田宿町割図 注記は元禄の村絵図によった。

明治16年伊達郡貝田村地籍図によって作成  
福島県歴史資料館所蔵



▲南の玄関口にある三ツ石 (なせか四個ある)



▲北の玄関口



▲貝田番所跡

# ふるさとの文化財

## 史跡 伊達朝宗室 結城氏墓

菊池利雄

20

光明寺の福聚寺（光明寺には、伊達常陸介念西入道朝宗室結城氏、法名「光明寺殿了修願善禅尼大師」の墓がある。

伊達朝宗（伊達朝宗は、伊達朝宗の父、常陸国伊佐庄中村の住人で伊佐または中村氏を称し、文治五年（一一九八）の奥州合戦に子息の為宗、為重、資綱、為家を従軍せしめ、信夫郡石那坂（福島県）の戦で、藤原泰衡の一族、佐藤基治（藤原基治）等を討取るなどの戦功により、伊達郡を下賜され一族を率いて移住、姓を伊達氏と改めた。

夫人は結城朝光の三女といわれるが、朝光は関東の豪族小山朝宗の弟であり、奥州合戦には源頼朝の近習として出陣、阿津

賀志山の合戦において、藤田宿より僅かの兵を率いて鳥取越の險を侵し朝宗にまぎれて搦手から藤原国衡の守る厚樫櫓に奇襲をかけ、勝因をつくった若年の武將であり、年齢的にみて、朝宗夫人の父としては無理で、朝光以前に結城朝宗を領した者の息女とみられる。晩年の夫人は光明寺の地に隠居したらしく、地元には姫御殿跡などの伝えも残されており、死後現在の墓地に葬むられたものであろう。

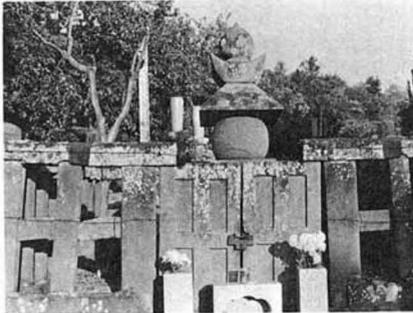
伊達氏第三代の政依は萬勝、東昌、親善、光明、光福寺をもつて「伊達五山」と定め、光明寺は朝宗夫人の菩提寺で、伊達氏の深い崇敬をうけてきた。寺の旧跡は明らかでないが、福聚寺西側の低地鹿野、沼地にいはは郭状をなす土割が三ヶ所ほどあって、城郭寺院の可能性がある。

光明寺は近世のはじめ、慶長九年（一六〇四）伊達政宗によって仙台の北山鹿島崎の地に移されたが、かつては少林、寿福、大悲、龍雲、紹妙院などの塔頭があったといわれており、福聚寺は光明寺移転後の跡地に残された

塔頭の一つともみられ、朝宗夫人の位牌が安置されている。

朝宗夫人の墓石である現五輪塔は、文政四年（一一二二）に仙台藩によって改修されたもので、赤瀧石の囲の中に、古い墓石の五輪塔と、伊達氏の家紋である縦三ツ引の明り窓のある萬年塔が一緒に保存されている。夫君の伊達朝宗法名「萬勝寺殿淨光念西大居士」の墓は西山城下萬勝寺（宮城県）の旧跡内にあって五輪塔の墓石は、夫人の墓と同じ年、仙台藩によって改修されたものである。

参考文献 国見町史一、四巻 福島市史一巻、吾妻鑑、伊達正統世治考、北山の寺（小林清治



# 身近にある野草薬草

17

## ミゾソバ

北海道より九州までの各地の溝やたんばのあぜ道などの水湿地に、群れをなして生える一年草。

茎は高さ三十〜五十cm、地上をはって節より根を出し、枝分かれし、まばらに下向き的小さなとげが出ます。葉は五〜十cmの卵状で、基部で左右に突き出す矛形、両面に、星状毛が生え、葉鞘は短く、縁に毛がはえています。

八〜十月ごろ、枝の先に十個ほどの花が集まってつきまします。花柄はきわめて短く、腺毛があります。雄しべ八本、花柱は三本あります。花後、果実を結びますが、三稜形の瘦果です。名前の由来は、花と葉がソバに似ていることから、また、生育場所が溝に多いことから、ミゾソバの名前がつけられました。

薬用 ▲



葉はつみとって、生のまま使用します。茎葉は開花期に採取して、日干しにします。切り傷の止血に、生の葉を手でよくもみ、葉汁を傷口につけます。

リウマチに、一日量として乾燥した茎葉五グラムを水四百ccで半量に煎じ、三回に分服。

▼食用 ▲ 開花前の葉をつめて軽くちぎりとげますが、こまかくて鋭いとげが、茎に縦に並んでいるので、注意してとるようにしましょう。

料理 生のまま薄い衣をつけて天ぷらに。塩一つまみを入れた熱湯でやわらかくゆで、水にとって冷まし、おひたし、ごまあえ、からしあえ、油いため、煮びたし、つくだ煮、汁の実などに利用します。

（山野草カラー百科から）



### 媒酌人に 報償金制度を新設



このたび、町では、後継者の結婚難を解消し、併せて人口増加策を図る目的のもとに、後継者結婚媒酌人報償金制度を新たに設けました。

これは、町内に在住するすべての世帯の後継者に、花嫁または花婿をお世話し、婚姻を成立させた媒酌人に対し報償金を差し上げるもので、次に該当する人は住民課に用紙がありますので申請してください。

一、両親、養父母、祖父母等と引き続き同居し、その後を継ぐ者で、定住の意志のある若者であること。

二、媒酌人に交付する報償金の額は、町外から花嫁または花婿を世話した場合三万円、町内の場合二万円。

三、報償金の交付を受けようとする媒酌人は、結婚式をあげ、婚姻届出後一ヶ月以内に申請してください。

四、媒酌人は町内外を問いませんが、申請に際しては後継者の推せんが必要ですので、婚約者と媒酌人はよく連絡を取り合ってください。

五、この制度は、昭和六十年四月一日から適用しますので、四月一日以降締結式をあげた人から該当します。

### 国鉄藤田駅利用の 皆さんへお願い



藤田駅の職員は、昨年十二月から常時一人勤務となっておりますが、業績次第では無人駅になることも予想されます。

藤田駅を守るため、切符や定期券は地元の藤田駅での購入をお願いいたします。

藤田駅営業案内  
一、乗車券、定期券、回数券、団体旅行のほか新幹線の指定券も取扱っていますので気軽にお電話ください。

二、列車ご利用のお客様のため有料駐車場を設置しました。

### 国民年金に任意加入 している サラリーマンの奥さん 届出はすみましたか？

新しい年金法が昭和六十一年四月一日から施行されます。この制度は、厚生年金に加入しているご主人と奥さんも国民年金に加入し、高齢になつたときや、万一障害者や母子家庭になつたとき、基礎年金が支給されるという仕組みです。

現在、国民年金に任意加入している厚生年金加入者の奥さんは、これまでのように国民年金の保険料を個別に納めなくても基礎年金を受けられることになりました。

このような加入者を第三号被保険者といいます。第三号被保険者になるためには、保険料の納付にかかわるものとして「国民年金任意加入被保険者現況届」を町役場に届け出ることが必要です。

社会保険庁から、あなたのもとに送付された「現況届」をお確かめください。届出の方法は、ご主人の会社で、あなたが「被扶養配偶者」である旨の確認を受けて、町役場に郵送するか、直接役場住民課国民年金係に、ご主人の厚生年金手帳と健康保険の被保険者証を提示して届け出してください。

期日までに「現況届」を提出されないと、納付書が引き続き発行されたり、年金が受けられなくなる場合もあります。必ず提出しましょう。

## 教育講演会のお知らせ



国見町小中 協同連絡会  
PTA 連絡協 P  
議会と 県北中 P  
TA が主催、町後  
教育委員会 から  
援し、中央から  
遠藤豊吉氏を招き  
き、教育と社会  
を次のように開  
いじめが社会  
の大きな問題に  
なっているときだけに是非お聞きください。

町民の皆様、多数ご来場ください。  
講師

- ・教育評論家
- ・NHK子ども教育相談

遠藤 豊吉氏

- ◆とき 12月10日(火) 午後1時30分
- ◆ところ 国見町町民福祉センター
- ◆演題 「子供たちの明るい未来のために」





# 力自慢競う

## 第一回綱引き大会

国見町公民館  
☎85-2676  
(有) 4156



▲地下足袋も登場

町内力自慢チームを決める第一回国見町綱引き競技大会が十一月六日午後七時から町民体育館で開かれ、熱戦が繰り広げられました。

男子十二チーム、女子十チームの力自慢が出場しました。その日のジャージ姿や、ねじりはち巻き、滑り止用の地下足袋など、思い思いのかっこうで老若



▲「ガンバレ!!」…応援にも力が入ります

男女が綱を引き合いました。会場には選手、応援団合わせで約四百人が詰めかけ、熱気で満ちあふれていました。成績は次の通りです。

▽男子

優勝 徳北スポーツ愛好会  
準優勝 石母田スボ振興会 A  
第三位 # B

▽女子

優勝 貝田スポーツクラブ  
準優勝 森北スポーツ振興会  
第三位 徳南女子チーム  
尚上位チームは十一月十七日開催されます伊達地方綱引選手権大会に出場することになっており活躍を期待します。



▲「アー、くたびれたー」



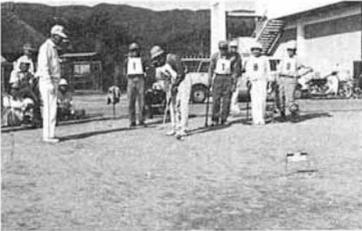
▲若いもんには、負けられん!!

## 第三回 町長杯争奪

### ゲートボール大会

第三回町長杯争奪ゲートボール大会が十月十四、十五日の二日間にわたり公民館広場で行われ、国見GB愛好会が優勝を遂げました。

参加十六チーム、約百五十名の選手が参加し、開会式では渡辺公民館長のあいさつ、前年度優勝森山老人クラブから優勝カップの返還があり、佐藤教育委員長、藤田老人クラブ会長からの祝辞のあと競技に入りました。当日は曇空で風がやや強く、寒い天気でしたが、熱戦がくり



▲熱戦が繰りひろげられたゲートボール大会

ひろげられました。

成績は次の通りです。

優勝 国見GB愛好会  
準優勝 西大枝社寿会  
第三位 栄寿会第一  
# 徳江北部

## 町民学校だより

後期の町民学校として二コースを今回開校しました。

◇俳句教室は毎週火曜日、十二月十日までの六回にわたって開校しています。生徒は二十九名、俳句を知り、俳句の基礎的な表現力や鑑賞力を身につけ、情操を更に深め文芸に対する理解を高めようという頭張っています。

◇ふるさと歴史教室は毎週木曜日十二月十二日までの六回にわたって開校しています。生徒は十六名、福島県史学会員の菊池利雄先生を講師に国見の文化財について理解を深めようという頭張っています。

## お知らせ

「国見の民話」皆さまからの希望が多く、予定数量をオーバー(超)し頒布価格一冊一三〇〇円のところ「二一〇〇円」となりましたので、お知らせします

# 源宗山チーム初優勝

## 町内一周駅伝競走大会

十一月十日、小雨の中、第九回町内一周駅伝競走大会が一般の部十一チーム、中学の部二チームの参加で開催されました。午前九時開会、大会長(教育次長)のあいさつ、来賓の佐藤教育委員長、仲野文教厚生常任委員長の祝辞があり、続いて前年優勝の大木戸Aチーム代表阿部松次選手の力強い選手宣誓、午前十時号砲一発で一斉にスタートしました。

収穫の終わった町内二十三・一kmのコースを各チーム健脚を競



▲さあ、一斉にスタート



▲「頑張れーッ」沿道には応援の人たちがいっぱい

いあいました。

沿道には多数の町民の方が出てさかんに声援をおくっていました。成績は次の通り

- ◎優勝 源宗山チーム 1時間22分33秒
- ◎準優勝 大木戸Aチーム 1時間25分29秒
- ◎第三位 石母田Aチーム 1時間25分44秒
- ◎優勝 県北中Aチーム 1時間19分49秒

### 家庭教育講演会のお知らせ!!

- 1、と き 11月30日(土) 午後1時30分
- 1、と こ 国見町公民館(町民福祉センター)
- 1、演 題 青少年を健やかに育てるために  
～最近の問題から～
- 1、講 師 福島県警察本部  
主任婦人・少年補導員 宮本 言 先生

- 区間賞(一般の部のみ掲載)
- 一区 高村 義孝(源宗山)
- 二区 佐藤美由起(森江野)
- 三区 黒田 武(小坂)
- 四区 佐藤 政浩(小坂)
- 五区 高野 輝夫(小坂)
- 六区 斎藤 洋二(源宗山)
- 七区 阿部 博(大木戸)
- 八区 青木 功(源宗山)
- 九区 中野 一雄(〃)
- 十区 鴨田 精一(小坂)
- 特別賞(最高齢者)  
佐藤 光康(大枝B)

### ママさん

#### バレーボール

#### 会員募集中!

九人制バレーボールチームを結成します。

練習日 毎週土曜日

場所 勤労者体育センター

時間 午後七時半～九時半

国見町在住及び在勤の方で、

### 図書寄贈

入会を希望される方は練習日においでください。または左記へご連絡ください。

奥山文子 八五〇三七九  
佐藤公子 八五二〇四六

創価学会国見支部から  
山岡荘八 太陽外十六冊の図書  
の寄贈がありました。ありがとうございました。

## 第五回伊達三町親善

### 児童ソフトボール大会

#### 小坂スパークス優勝

国見町スポーツ少年団連合会主催の伊達三町親善児童ソフトボール大会が十一月三日午前八時、山崎運動場で行われ、小坂スパークスが優勝しました。

大会には各町より十二チーム、約二百人の選手が参加し、あいにくの強い風でしたが、選手たちは、精一杯のプレーをし、応援にかけた父兄たちははげんな声援をおくっていました。

成績は次の通り

- ①小坂スパークス
- ②藤田スポ
- ③森江野スポ



▲優勝した小坂スパークスのみなさん



### 岩城重夫さんに 若連会長、鹿島神社宮司 から感謝状

町の秋祭りの代表といえる鹿島神社例大祭が十月十九、二十日の二日間、藤田市街地で行われ、今年も大勢の人でにぎわいました。

この祭には、社元、宮町、大町、錦町の四台の山車が出、それぞれ若連によって引かれます。



▲感謝状を手に喜びの岩城さん

岩城さんは、昭和二十九年に大町若連に入って以来、会長を五年、それ以後現在まで世話役として活躍してこられました。大町若連と鹿島神社では、岩城さんの功績を称えるため、十月二十一日、記念品と感謝状を贈りました。

「長い間生きてきて良かったと思います。人集め、金集めには毎年苦勞しますが、今回感謝状をいただいたので、他の若連の方たちの励みにもなると思います。今後も、若い人と同じ気持ちで体の動く限り、町の伝統行事を守るため続けていきます」と喜びを話してくれました。

### 今年も大収穫 小坂小で稲こぎ

秋晴れの好天に恵まれた十一月五日、小坂小学校では、五年生四十六名全員で稲こぎを行いました。

勤労体験的学習の一環として子供たちに勤勞と収穫の喜びを味わってもらおうと、昨年からは始まったものです。

十一月九日にはもみすりを行い、精米後、十一月二十二日に行う予定の収穫祭で、全校生でこはんにして味わうのことで



▲晴天の中で行われた稲こぎ

### 県北中で クリーンキャンペーン

さわやかな秋晴れに恵まれた十一月九日、県北中では、恒例となった「クリーンキャンペーン」を実施しました。

今回は、企画から実施まですべて生徒が主体となって行いました。

午前九時、全校生徒と職員五百八十五名が総出で、町内の主要道路や観月台公園などのゴミ拾いやカーブミラーの清掃などを行いました。

今回もあいかわらず目についたのが、道路の側溝などに投げられたあきカンの多さ。

それに、燃えるゴミがトーン



▲ガードパイプを掃除



▲国道わきには、こんなにゴミが...

トラック二台分、燃えないゴミ二トントラック一台分が集まり、あいかわらず、ゴミの多さに、生徒たちもうんざり顔。道路は私たちがとって、なくてはならないものです。いつも安全できれいにおきたいものです。自分の手で、自分を危険なめにあわせるような、あきカンやゴミのポイ捨てはやめましょう。

## 編集日記

○十一月に入り、連日雨が降りましかで、湿度の方は九月並みの温かさが汗ばむほど。このおかげで、紅葉もまだ今が見ごろです。赤や黄に色づく山々を見ると、近づく冬をどことなく感じさせてくれます。

○新札発行からちょうど一年が過ぎました。いろいろと話題をよんだ新札でしたが、一年が過ぎ定着したようです。今では旧札はほとんど見かけられなくなりましたが、なんとなく寂しい気がします。

○十月、十一月と各種のスポーツ大会が開かれました。十一月に入ってからも、二日には青東駅伝があり、今回はエース下重が抜けたため、一位で県入りはなりませんでしたが、総合八位とまずまずの成績でした。六日は、初の綱引き大会が行われ、町内の力自慢が集まり、腕を競いました。また十日には、恒例の町内一周駅伝競走があり日ごろの練習の成果を競いました。

○日ごろ、スポーツに親しむ時間の少ない私たちですが、毎日とまではいなくても週に一度くらいは、スポーツをする時間をとりたいものです。 S